

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校長 滝村 一彦

学校住所 (岡本キャンパス) 高山市下岡本町2000-30 電話 0577-32-5320

(山田キャンパス) 高山市山田町711 電話 0577-33-1060

1 会議の名称 平成29年度岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第1回)

2 会議の構成

委員	石井 充子	児童養護施設 夕陽ヶ丘施設長
	伊藤 順子	(有)ドラッグいとう 専務取締役
	小林 光士	飛騨ミート農業協同組合連合会 代表理事常務
	横畑 守	岐阜県指導農業士
	杉山 和宏	(株)高山電材 代表取締役

学校側

滝村 一彦	校長
河渡 正史	副校長 (全日制山田キャンパス)
後藤 敦	副校長 (定時制・通信制)
高田 功	事務部長
池田 哲也	教頭 (全日制岡本キャンパス)
金子 佳弘	教頭 (全日制岡本キャンパス)
田屋 雅樹	教頭 (全日制山田キャンパス)
加藤 久視	教頭 (定時制)
垣下 大吾	教頭 (通信制) 欠席
大森 賢一	教諭 (全日制山田キャンパス・教務主任、記録)

3 会議の目的 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成29年6月16日 (金) 13:30~15:20
飛騨高山高等学校 山田キャンパス会議室
学校評議員5名と学校側9名が出席

5 会議の概要 (進行 田屋教頭)
開会の挨拶 (河渡 副校長)
学校評議員の委嘱 学校長
自己紹介
授業参観 (山田キャンパス5時限目の授業を見学)
学校説明 全般 (滝村校長) 全日制 岡本キャンパス (金子教頭)
山田キャンパス (田屋教頭) 定時制 (加藤教頭) 通信制 (後藤副校長)
授業参観の感想及び学校への意見・要望等
閉会挨拶 (後藤副校長)

(1) 授業 参観 山田キャンパスの第5限の授業と施設・設備を見学

(2) 学校長挨拶・学校説明

今日は山田キャンパスを見学していただいた。2つのキャンパス、3つの課程、全日制については4つの大学科が1つの学校として協力して教育を進めている。本校の校訓は快活・友愛・創造である。また、「文武不岐」を掲げて一人の生徒が部活動にも学習にも取り組み、成長していくことを目指して学校生活を送っている。「文」は学習、「武」は部活動を表している。本校のモットーは「生徒が自慢」であり、生徒はよくがんばっている。もう一つのモットーは「夢が叶う学校」である。全課程を併せて千人を超える生徒が将来、飛騨の地域社会を支える「地域社会人」として巣立っている。具体的には100人の卒業生が地元就職し、残り200人の生徒も上級学校を卒業後相当数が地元へ帰ってきている。今日から東海大会が始まるが、ハンドボールと陸上部が出場している。全日制各科はそれぞれ特徴を生かした学習を行っている。定時制についてはかつては働きながら学ぶ場であったが、現在では中学校時に不登校を経験した生徒が多い。ほとんどの生徒が登校できて元気に活動している。通信制では乗鞍研修も実施し、相互に交流する場を設けている。活躍した生徒については、新聞に載った記事をすべて収集して、校内でも紹介している。本日はぜひ忌憚のないご意見をお伺いしたい。

(3) 今年度の学校状況の説明

<全日制 岡本キャンパス> 金子教頭

全日制の教育方針は「豊かな人間性と生きる力を備えた生徒の育成を目指す」であり、教育目標は、「専門知識や技術を身につけ、明朗快活で心豊かな人間性を養う」である。

学ぶ意欲・態度と問題解決能力の育成（「文」にあたる）とコミュニケーション能力・健康・体力の増進（「武」にあたる）を指導の重点にしている。学習指導については、アクティブラーニングとユニバーサルデザインを取り入れよりわかる授業に努めている。生徒指導では、挨拶をしっかりとするなどコミュニケーション能力の向上を図り、ボランティア精神に富んだ生徒を育てていきたい。進路指導ではキャリア教育をすすめ、将来に向かって主体的に努力できるよう指導している。国際化に対応した取り組みも行っている。

近況としては、退学者や休学は今のところなく順調に滑り出している。3科目以上不合格の成績不振者も3名のみである。保健室登校が1名、体調が整わず遅刻の多い1名がいるが、全体としては順調なスタートを切れた。生徒は生き生きとしていて清掃活動等にも取り組んでいる。全生徒のうち320人（55%）が自転車通学をしていて、マナー指導に努めている。4月以来、2件の交通事故が起きた。大きくは無かったが今後の課題である。卒業生のうち、66%が進学しており、32%が就職している。商業科と生活文化科では検定試験に取り組んでいる。普通科においてはセンター試験との関わりもあり、積極的に英検を受けさせていきたい。保健室に訪れる生徒はあまりないが、おたふく風邪に生徒2名と教員1名が罹患した。

<全日制 山田キャンパス> 田屋教頭

それぞれの学科が2つのコースに分かれて農業の専門教育を行っている。飛騨地区唯一の農業科であり、飛騨全域から集まる生徒を、地域を支える人材として地域に返すことを目標にしている。園芸科学科では花いっぱい運動などへの長年の貢献が認められ表彰を受けた。新品種のもも「飛騨乙女」の共同研究を行うなど地域と連携した取り組みをしている。生物生産科では飛騨牛のコンテストである共進会で優勝し、今秋に宮城県で行われる全国和牛能力共進会に出場が決まっている。また昨秋のお米甲子園では全国で一位になった。環境科学科では国交省と協定を結んで清見のビオトープで共同研究を行っている。昨年は工務店と提携して演習林で育てた木で家を作る取り組みを行った。今後も地域の協力を得て学ばせていただき、地域に恩返しする教育に努めていきたい。

<定時制>

90名の生徒が学んでいる。年々入学者が増加しており、2年生は28名、1年生は32名が在籍している。多くの生徒が働きながら通学をしており、悩みを相談する生徒も多く、8名の教員が協力して対応している。チームティーチングを取り入れ、2人体制で授業を行っている。1年生の夏までは学び直しの授業をしており、先日行われた前期中間テストではほとんど不合格者は出なかった。現在は懇談と補習・補充を行っている。服装等は自由であるが、最初髪を染めていた生徒もアルバイト先の都合もあり、直してくるなど落ち着いている。部活動ではバドミントンで優勝し、全国大会に出場が決まっている。

<通信制>

84名の生徒が在籍している。日曜日のスクーリング（年25回）に出席し、レポート提出をすることで単位を修得している。そのほか、水曜日のスクーリングや木曜日のスクーリングを実施しており、3年間で卒業する事も可能である。7名は定時制と併修している。今年から学校設定科目「ソーシャルスキル」を開講し、コミュニケーション能力のさらなる向上を目指している。また、先日球技大会を実施し、チームで楽しく協力する機会とした。乗鞍宿泊研修に30名が参加した。部活動では卓球部が2年連続で全国大会に出場しており、今年も明日（17日）が県大会である。

(4) 授業参観の感想および学校へのご要望・ご意見等

意見1 昔は自由に見学し動物と遊べたが、今は伝染病の事もあり一定の見学制限しているとの事で残念に思ったが、地域への影響を十分考えての事と聞き、納得した。広い敷地で伸び伸びと学習していて大変贅沢な環境であると感じた。一本一本生徒の担当木が決まっているなど、責任を持たせることにより、生徒のモチベーションがより上がっていることを感じた。

意見2 昨年は岡本を見学した。定時制も通信制も一生懸命生徒を育てていて敬意を表したい。近年は大人になってからも心を病む人が多く、厳しい世の中であり、高校生年代でつまずいた人にも手を差し伸べることが大切だと思う。今日は特別支援学校中等部の生徒さんと生物生産科の生徒さんのふれあう授業を参観したが双方とも生き生きして感激した。かつては畜産科は生産性を重視していたが、人を伸ばす教育を行っていると感じた。山田キャンパスの自然を生かし、岡本の生徒も自然に触れあえるよう相互の学習交流を行ってほしい。雌の子牛をこちらに寄贈しているが、大事に育ててもらい、このことが報道され、余計に飛驒牛の評価が上がっている。この学校の活動が経済効果を生んでいる。

学校側 すでに3年生の選択授業で山田と岡本の相互交流は行っている。さらに進めていきたい。

意見3 初めて山田キャンパスに足を踏み入れたが、すごくよい環境で高山市内とは思えないほどである。各圃場や飼育舎に年間の収支が掲示してあるなど、現実の仕事につながる教育が行われている。会社を経営しているが人手不足であり、いずれ飛驒に戻るという気持ちを育ててほしい。

意見3 校内に生徒が作った施設（階段や通路など）があるが、小中学校に赴いて校内を整備するような活動はできないか。

学校側 様々な課題はあるが、検討したい。

意見2 岐阜県内の商業高校のように株式会社化して、販売等を拡大する考えはないか。

学校側 実習で生産したものを買って頂き評価して頂くという考え方で販売している。農場の生産物には限

界があり、自ら作った以外によそから仕入れて販売することは山田キャンパスでは行わない。

6 会議のまとめ及び閉会

本日は貴重なご意見をいただきました。学校で十分検討したいと考えております。評議員の皆様には7月に学校評価アンケートをお願いすることになっています。ご協力をお願いします。

第2回は1月26日（金）の学習成果発表会の日に開催する予定です。